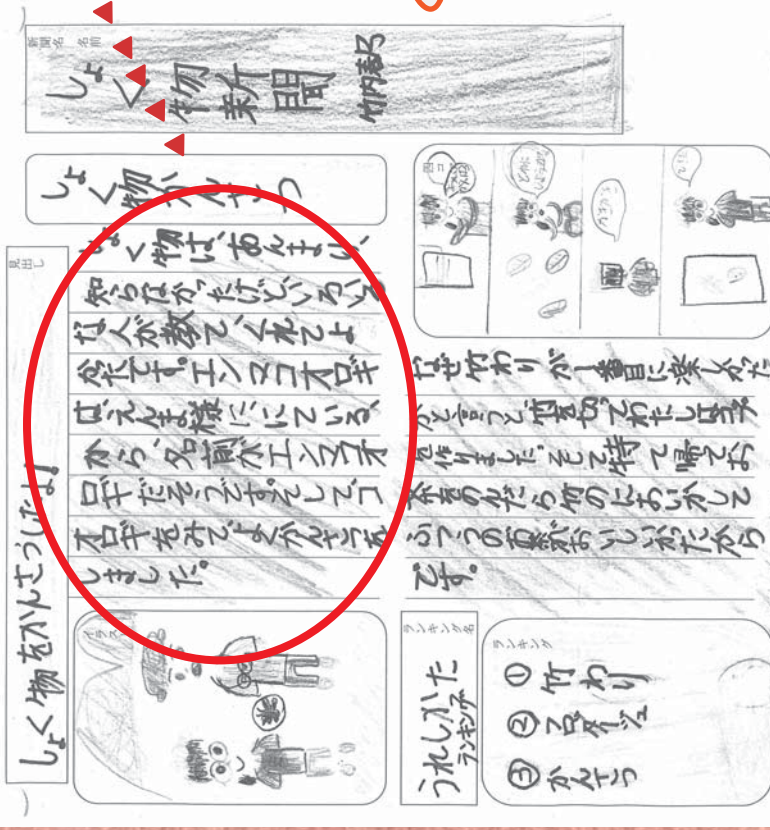


里山だより

No.14
2019年秋冬

石屋小学校3年生の環境体験学習を毎年夏の2回、冬にここ石の寝屋緑地のいきものたんば周辺で行われています。今年行った秋の観察時に子供たちが先生に教えてもらった「エンマコオロギ」について少しお話します

エンマコオロギ 閻魔蟋蟀



学名: Teleogryllus emma
バツタ目 (直翅目)・コオロギ科
日本本土に生息するコオロギ最大種
学名にも「emma (エンマ)」とついている



海野和男のデジタル昆虫記より

名前の由来

閻魔大王の怒った顔に似ているところから。

鳴いているのはオスだけ



出典: WeatherNews

メスは鳴きません。
オスが鳴くといっても声帯があるわけではなく体を動かしながら2枚の翅 (はね) をこすり合わせて音をだしています。
しかも、コオロギの雄はちゃんと意志をもって鳴きわけています。(左の絵参照)
昆虫の世界しかり。鳥の世界しかり。オスは上手に求愛しなければ子孫を残せません。勝つのは肉食系男子！
しかし、ガツガツしすぎて(?) 視力が悪いコオロギくんは間違っオスに求愛することもあるそうです。間違われた方はいい迷惑ですね。。

虫のオト? 虫の声?

童謡「むしのこえ」、日本人ならみんな知っていますね。
『あれマツムシがいない〜チンチロキンチンチンチロキン』
この2番の歌詞が、『キリキリキリキリおろぎや〜』ってご存じでしたか？
昔は「こおろぎや〜」の部分が「キリギリス〜」だったそうですが、万葉集のころから詠まれている蟋蟀は「きりぎりす」で、キリギリスがコオロギだったという説があり「むしのこえ」の歌詞も変わったそうです。
また、「虫の声」と表現されるように、日本人は虫の鳴き声を「声」ととらえられる脳の作りになっていきます (左脳で聞く) しかし、外国人は右脳で処理しているため虫の声を雑音としかとらえられません。擬音、擬態、効果音なども多彩なもののためだといわれています。季節の移り変わりを虫の声で感じられる日本人としての感性を大切にしていきたいですね。

ひつつきむし



これはアメリカセンダングサですね。くつつき虫にはたくさん種類があります。アレチヌスビトハギ、コセンダングサ、イノゴチ、オオオナモミなどが有名なひつつきむしです。